

知事と区市町村長との意見交換（大田区）

令和1年10月9日（水）

13時40分～14時00分

○行政部長 それでは、早速でございますが意見交換を始めさせていただきます。冒頭知事から一言お願いいたします。

○知事 座ったままで失礼いたします。今日はお忙しいところ都庁までお越しいただきましてありがとうございます。また、日頃からの都政運営への御協力・御理解、誠にありがとうございます。また、先般、中央防波堤埋立地の境界確定の問題に関しましては、臨海地域の今後の発展に区の皆様方と一緒に、さらに力を尽くしたいと、このように申し上げたところでございます。これからの発展をともにという意味でございます。

現在、都では、東京の長期戦略を定めるということから、いろいろと地域の今的な、そしてまた将来的なビジョンを伺っているところでございます。限られた時間ではございますが、御当地の大田区の様々な課題について伺わせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○行政部長 それでは松原区長お願いいたします。

○松原区長 どうも今日は、大変お忙しいところ、このような機会をつくっていただきまして大変ありがとうございます。また、先だては大変お世話になりました。ありがとうございます。臨海部の開発については、しっかり東京都さんの方とまた相談させていただきながらやっていきたいというふうに考えていますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

今日は私の方から、大きく言いますと2点お話をさせていただきたいと思っています。1点は、羽田空港の新空港線の話でございまして、これは全体で東京都にどう影響があるかという話でございます。我々大田区にとっても東京全体にとっても大変効果のあるものではないかということを説明させていただきます。

蒲田駅の空港線を一つの突破口としましてやっていきたいなというふうに思っているのですが、ちょうど蒲田の駅は戦災復興から起こりまして、まだまだそのままになっています。ですから、新しく作り変えていこうという、そういうものがあります。それで、新空港線は、JRの蒲田駅と京急蒲田駅とわずか800メートルしか離れていないのですが、これが途切れているために、アキレス腱みたいになっていまして、非常に効率が悪いということでございます。

我々としては、中防もそうだったのですが、今回この蒲蒲線というのは、三十何年間大田区の悲願としてやってきた問題でございます。そういうことで、この三十何年の間、時代が大きく変わりました。例えば、羽田空港の国際化ということもこの間になりましたし、いろいろと動きが非常に大きく、空港をはじめ、特に乗降客数も今8,700万人になって、世界でも4番目ぐらいの乗降客になっていますから、羽田の勢いをどう結んでくるかということが大変大きな課題になっています。そういう中で、今蒲田の方も動いていこうとい

うことで、蒲田の駅ビルも老朽化してきていて、一緒にやっ払いこうという話があります。

そして、その駅前の西口を整備させてもらったのですが、東口も整備をさせていただきます。その後、昔に映画街があったところがあるのですが、そこをしっかりと再開発してこうということで、組合ができて、今地域の方々もこの新空港線と併せてやっ払いこうという、そういう大きな動きがあります。そして、今、京急蒲田のところも再開発、そういう動きがあるということで、これがもし軌道に乗ってくると、まさに城南地区では、非常に空港と近いですから、空港と一番近い JR の駅というと蒲田駅になりますので、そういった意味では起爆剤になるかと思っています。蒲田駅そのものが、東急さんと一緒に入ると 45 万人ぐらいの乗降になるところで、これは JR 東日本でも 20 番ぐらいに位置する、大変乗降客数の多いところでございます。こういう新空港線を整備することによって、蒲田のまちづくりや、他に下丸子とか多摩川などがあるわけですが、ここを一つを中心としてやっ払いきたいという思いがあります。こういったことも、やはり都といろいろとお話もさせていただいていますので、やらせていただければというふうに思っております。

そして、今お話ししましたとおり、新空港線が羽田とつなぐということが非常に大きな意味があって、時間との勝負や国際競争の中では、これを絶対やっ払いきたいなというふうに思っています。これは知事がよく言われていらっしゃる、自動走行の話も、ここで、新産業創造・発信拠点というのですが、私ども、近未来都市みたいな形で考えています。イベントホールや国際会議場、医療の最先端医療など、そういったものを入れていきますので、ちょうどオリンピックの時に、まち開きをさせていただく予定でいますけれども、オリンピックを見に来る方にとっても一つの大きな見物場所になってくれればよいかなと思います。国内外の商取引もここでできることになれば、まさに羽田空港というものの立地条件を生かしてできてくるかなという、国際競争の中でどう戦っていくかが大きな勝負だと思っていますので、ここと新空港線とは切っても切れないということでございます。

それから、広域的に非常に影響がありまして、特に今まで渋谷・新宿・池袋ということで、高野区長がすごく賛成してくれております。「いや、松原さんね、とにかくこっちから行くのがすごく便利になるから」ということで、そうしたら、川越や和光、あと、所沢の市長さんも是非、仲間に入れてくれと。そして、前に来られた東久留米市の市長さんも、6 人の方がそろって東京都さんに来たっていうのですが、非常にやはりこれをつくることによって、東京の北西部、その方々がものすごく便利になるということです。それから、地震がいつ来るか分かりません。首都直下地震の対策をやられていますので、やはり、路線は複数あった方がよいということでございますので、そういった意味からも大変貴重なものであると思っております。こういうことの中で、答申を受けましてやっ払いきて、もう 3 年ぐらいがたちます。役所ベースの方でそれぞれお話をさせていただいているところですが、もう一息というところになっていまして、私は全く中防と同じような気持ちで、この蒲田線を取り組んでいきたいという強い決意がありますので、なんとか目途をつけたいということがあります。そういった意味では、是非、都と区で協議をさせていただいております。

すが、さらに実現に向けてやっていただければというふうに思います。

そのときに一番問題になるのは、財政支援の事だというふうに思っております。それなりに我々としても基金を積みまして覚悟してやらせていただいておりますが、でもどうしてもそこが大きなネックになりますので、一日も早く目鼻をつけていただいて、実現にこぎつけられればありがたいですので、是非その辺の事についてよろしくお取り計らいいただければと思います。これが1点です。

それからもう1点は、福祉の関係ですが、障がい者総合サポートセンターという施設が、全部の障害を、ここで受けるものになっています。これは、都内でも非常に珍しい施設だと思います。それで、この3月24日に、第2期工事が終えまして、重度心身障害児・者の方々の短期入所、1週間ですが、預かる施設をつくりました。23区では初めてです。この時に、10床ですが、東京都の方に病院扱いになるので、いろいろと御指導いただきましてありがたいなと思っているところでございます。

それから、発達障害の方が、今までは小学校しかなかったのですが、今度はここで18歳まで支援しようという形で動かしてもらいました。ちょうど1期工事が3年前に終わったのですが、全ての障害をここでやれるという形になりました。それで、なぜつくったかと言いますと、重度心身障害者の施設が都内の北西部へ集中しています。都立など重心障害児者の施設というと、市部の方が七つ、小平市・府中市・東大和市・東村山市・武蔵村山市・多摩市、そして区部の方では北区と江東区と板橋区ということで、北西部の方にありまして、私ども大田区の城南の方にはないというところなんです。ところが、大田区に、都立の学校が三つあります。城南特別支援学校と、矢口特別支援校と、田園調布特別支援学校、これは全部都立でございまして。そうしますと、当然学校へ来て卒業しますと、その後の問題というのがありますので、私どもこの障がい者サポートセンターというのは、そういう意味も含めて受け皿としてやらせていただきました。ところが、費用が3年間で35億円かかっていまして、単純に3で割ると10億円ぐらいかかります。現在のところこれは区の単独負担ですので、できれば、この辺について、資金的な援助といいたいまいしょうか、そういったものをいただくことができれば、やはり長く続けていかなければいけないと考えていますので、是非御理解いただければありがたいと思います。とりあえず2点お話をさせていただきました。

○知事 2点伺わせていただきました。まず、中防も長くかかったということでもありますけれども、新空港線についての御指摘があったかと思えます。国の答申で改めて申すまでもないとは思いますが、改めて、東急東横線との相互直通運転を通じて、国際競争力強化の拠点の新宿・渋谷・池袋など、都の北西部と、それから、埼玉の南西部と羽田空港とのアクセスの利便性が向上すると、この効果がこの答申で示されているわけです。

一方で、関係地方公共団体と、それから鉄道事業者などで費用負担のあり方など合意形成に進めるべきとも、課題も課されておりまして、これについても、鉄道事業者などと協議・調整を進めているところでございます。大田区さんの区の強い思いも承知をしております。区をはじめとする関係者との調整、しっかりと進めて、都として必要な支援を行っ

てまいりたいということでございます。

それからもう一つが、障害者の特に重症心身障害児、障害者施設のお話でございました。こちらは、どんなに重い障害があっても、必要とするサービスを利用しながら地域で安心して暮らすことができるようにと。そして、地域生活基盤の整備というのは、必要だ。これはまさしくダイバーシティの考え方に合致するものかと思えます。それで、通所施設などの日中活動の場であったり、短期の入所などの在宅サービスなど、地域生活基盤の整備を促進いたしております。そしてまた、重症心身障害者などの家族の方々のレスパイトも必要になってくるということから、また通所施設への補助について、区の施設も対象いたしております。ということで、区の取り組みについても、支援をさせていただいているところでもあります。それから、発達障害児が身近な地域で安心して生活できるように、やはり近場ということではありますが、早期発見・早期支援のための体制整備などを行う区を支援をしているところでございまして、引き続き区と協力しながら障害者の施策の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

ほか、たくさんいただいておりますが、今二つ御指摘がございましたので、その2点に絞ってのお話とさせていただきます。

○松原区長 費用負担の問題につきましては、是非、財政支援という形になりますが、今後一つの大きなポイントになっていると思えます。私どもとしては、7月に新空港線担当も設けましたし、会社設立に向けての予算も積んだのですが、これも2年流れてしまっているということもあるものですから、できるだけ早くしっかり区としては受けてまいりたい、是非一緒にやらせていただければというふうに考えていますので、特段の御配慮をいただければと思っております。

それから、障害者の施設は、是非、知事の方も、お時間お忙しいと思えますが、来ていただいで御覧いただければ大変ありがたいと思っております。地域力と私どもは言っているのですが、地域の方々に集まって来ていただいでボランティアでやっているとか、大田区は障害者の方々が働きに出ていることが多くて、長い方は本当に定年まで40年間務めるとか、30年間務めるとか、そういうことがありますので、これも福祉局長さんも来ていただいで、その現場を見てもらっているのですが。今度は10月20日に、「しょうがい者のつどい」もあって、これは3千人ぐらい障害者等が集まってやることなのですが、そういう障害者支援については特に力を入れていきたいと思えますし、また、さまざまな障害が複雑多様化していますので、減ることはないと思えます。やはり障害の認定というのはずっと増えてきていますので、より一層こういった施設が大事であると認識しています。そういうことも含めて一つお願いできればと思っております。

大田区の体育館は何回かお越しいただいておりますが、そこで「しょうがい者のつどい」が行われます。重症の方など様々な方が集まり、非常によいふれあいの場になっています。パラの選手は、うちの方では高田千明さんという盲目の方で、目が全盲ですけど、走り幅跳びで前回入賞されました。今回もオリンピックを目指して頑張っている最中なのですが、そういう方に来てもらったりしていますが、今回はまた違う方に来ていただく予定で

今おります。

○**行政部長** そろそろお時間になります。最後に知事から一言お願いいたします。

○**知事** ありがとうございます。また、大田区は、様々な町工場など、ものづくりの拠点で頑張っておられる方々も多いと思います。事業承継などの課題も抱えておられるかと思えます。やはり稼ぐ東京の羽田空港は玄関口でもあります。それから、そのものづくりの現場をたくさんお持ちだということからも、これからも連携させていただきたいと思っております。

○**松原区長** 是非お願いいたしたいと思っておりますので、特にものづくりのまちですから、空港の跡地に、私どもとしてはそういう出口をつくらせていただきますので、これには東京都さんとしっかりお話をさせていただければと思います。

それから、もう一つ、最後に恐縮ですが、幼保一元化になりますが、一番私危惧していますのは、私立幼稚園さんとの問題です。私どもの方で見ても、3歳児から5歳児の方は、そろそろ逆転現象が起こりかけてきていまして、そうすると、私立幼稚園さんの経営の問題が直近で出てくるような気がするのです。それが非常に危惧しているところでして、その辺のところは、私ども幼稚園連盟と話し合いをしているのですが、なってからでは遅くなってしまうので、一つ御配慮をしていただければと思います。

○**知事** 幼稚園の運営について、都内の私立幼稚園に対しましては、基幹的な補助である経常費補助の実施をしております。それから、年間通じての長時間の預かり保育を実施しておられる私立の幼稚園を、東京子育て応援幼稚園と名付けて、都独自の補助に取り組むなど、様々な支援も行っております。今回この無償化が新たにまた加わるということで、この辺のところの影響がどうなるのかを見極めながら、また、子育てについてあまり猫の目行政にならないようにしたいと思っております。

今日はそういった点でも御意見を伺わせていただきまして、誠にありがとうございます。

○**行政部長** それでは、これで意見交換を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。